

しもや 桜井町下谷の棒の手を 守っていく。

問▶文化振興課(☎<77>4477)

愛知県に伝わる伝統芸能、棒の手。安城市内では桜井町下谷のみに現存します。
桜井町下谷棒の手保存会会長の鈴木駿弥さん(桜井町在住・29歳)に話を聞きました。

棒の手を復活させた祖父

桜井町下谷の棒の手は、安城市で唯一現存する棒の手です。戦中戦後の混乱でいったん途絶えていたところを、僕の祖父が昭和30年頃、下谷の仲間と再生に向けて奔走したそうです。祖父自身も村の古老から演武の指導を受け、後に子ども達を集めて指導をするようになりました。

下谷では、小学生になると多くの子が棒の手を始めます。秋の下谷の祭や桜井神社での奉納に向けて、お盆頃から下谷八幡宮の境内で練習します。

後継者として

小学生の頃の僕にとって、師匠だった祖父は憧れでした。祖父に追いつきたいと必死に取り組むうちに、跡を継ぐんだという思いが自然に芽生えました。小学校卒業と同時に棒の手を辞めるのが普通だった中、中学校入学後も継続。高校以降は自分の技の修練に加えて子ども達の指導を始め、日本史を専攻した大学では棒の手についての卒論も書きました。食品メーカーに勤める今は、保存会会長として棒の手の保存・伝承に取り組んでいます。

「演じる」ではなく、「戦う」

棒の手は型を伝える武術ですが、型通りにただ「演じる」のではなく、



棒の手が本来持つ「戦う」という意味を僕は色濃く表現したい。見ている人に僕達の気迫が伝わるような演武を目指しています。大学生の頃から柔術、剣術、居合、空手を習っているのもそのため。10月の桜井神社奉納では、祖父の代で事故のため中断していた、真剣での演武の復活を予定しています。

下谷の子ども達に伝えたいこと

僕達を指導してくれた祖父ともう一人の師匠は、亡くなる直前まで棒の手に携わっていました。僕も目指すところは同じです。生涯をかけて棒の手を伝え続けていきたい。たとえ小学生の間といういつときの経験でも、下谷の皆さんの応援を受けながら地域の伝統を担う経験は、子ども達にとって決して無駄にはならないと思います。後継者が育っていくことを願いつつ、これからも精一杯、子ども達への指導、棒の手の伝承に取り組んでいきたいと思っています。

【桜井町下谷の棒の手】

永祿3(1560)年の桶狭間合戦で敗れた今川方の家臣・式部太夫が下谷村に落ち延び、農民に自衛の武術を教えた事が始まりとされ、式部流と呼ばれます。県内に棒の手の流派は多数ありますが、式部流は下谷のみに伝承されています。

桜井町下谷棒の手保存会の現在の主な活動は、下谷八幡宮祭礼(9月第2回)、桜井神社祭礼(10月最終回)での奉納演武です。芸能大会やイベントでも演武を披露しています。

今年も桜井神社祭礼で 奉納演武

桜井町下谷棒の手保存会総勢40名強が演武を奉納します。勇壮な演武をぜひご覧ください。

●日時 10月27日(日)第一部↓午前11時30分 第二部↓午後2時30分

※時間は前後する場合有。小雨決行。
●場所 桜井神社(桜井町)

